

【診療科トピックス】

糖尿病を予防、治療する。 そして探究する。

～糖尿病・内分泌・生活習慣病科～
(2～3面)



表紙写真: シャトルバス運行開始セレモニー

www.takatsuki.jrc.or.jp

診療科 トピックス

～糖尿病・内分泌・
生活習慣病科～

糖尿病を予防、治療する。 そして探究する。

金子糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長



□ 糖尿病とは

糖尿病とは、血液中のブドウ糖（血糖）が過剰になる病気です。ブドウ糖は生きていくために欠かせないエネルギー源ですが、多すぎると血管にダメージを与え、さまざまな病気（糖尿病合併症）を引き起こします。日本では40歳以上の3人に1人が糖尿病または糖尿病の予備軍と言われ、身近な病気になっています。

糖尿病の怖さは、気づかない間に発症し、どんどん進行しても痛みも苦しみも感じないために、合併症が手遅れになってしまうことです。何か自覚症状が出てしまった頃には全身の血管が痛んでいることが多いのです。飽食の時代となった日本ではどんどん糖尿病の患者さんが増え続けています。生活習慣を変えるだけで、糖尿病の予防や進行の防止に大きな効果がありますので、今一度ご自分の生活を振り返ってみて下さい。また血糖値が気になる方は、血液検査をお受けになることをお勧めします。

□ 当院の取り組み

当院は地域の基幹病院として高槻市医師会の糖尿病地域連携パス委員をつとめ、教育講演を通じ、糖尿病診療を専門的に先導する役割を担っています。1型糖尿病、2型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病や特殊な糖尿病（妊娠糖尿病、MODY、内分泌疾患に伴う2次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner症候群など）の治療を行っています。

また、糖尿病腎症の治療、透析の導入、重症足潰瘍や糖尿病患者における術前全身評価および術前血糖コントロール、周術期コントロールを専門医の視点から行っており、糖尿病の治療だけでなく糖尿病患者におけるがん精査、大血管症などあらゆることに対応しています。患者さん個々の病態や生活スタイルに応じて治療法を検討し、療養指導や栄養相談を行なっています。例として糖尿病による合併症が出ている場合は他科や多職種と密に連携して診療を行なっています。また、透析予防指導なども行なっています。

主な 治療疾患

- ・1型糖尿病、2型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病
- ・特殊な糖尿病 - 妊娠糖尿病、MODY（若年発症成人型糖尿病）、内分泌疾患に伴う2次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner症候群など
- ・糖尿病腎症、透析導入
- ・重症足潰瘍
- ・糖尿病患者における術前全身評価および術前血糖コントロール、周術期コントロールを専門医の視点から行っています。

□ 診療方針

- ・糖代謝異常だけでなく全身をみる診療を基本としてgeneral medicine（総合内科）を提供し教育しています。
- ・血糖や代謝のコントロールを行いながら、生体内で起こっている代謝・内分泌系の逸脱を正常に近づけ血管を守っていく科であることを信条として診療に当たっています。
- ・大血管症を含む全臓器の糖尿病・代謝異常に関わる疾患を見出し、各専門医と共同診療のもと加療を行っています。
- ・患者さん自身が自分の主治医になるよう自己管理の指導や、ご家族への指導を行なっています。

【クリニカルパスによる糖尿病教育入院】

当院では治療を継続するために患者さんに合わせた指導を医師・看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士・管理栄養士のチームで考え、カンファレンスを行い提供しています。「日本糖尿病療養指導士」の認定を受けた看護師を配置し患者さんへの指導・援助も行っています。

- ①インスリン治療が必要な方やGLP-1受容体作動薬による治療が好ましい方で、入院が出来ない方については外来で自己注射指導を行っています。
- ②患者さんの知識と生活にあわせた、チームによる糖尿病透析予防指導を行っています。

【糖尿病教室のご案内】

糖尿病食は決して特別な食事ではなく、ひと昔前の和食です。また、調理法を少し変えるだけで十分な量をとておいしく食べられます。当院では皆さんに糖尿病食を食べていただける機会を糖尿病教室として1か月に1回（毎月第2火曜日）に開催しています。糖尿病の方・そうでない方、ダイエットを考えている方は是非ご試食されることをお勧めします。

また、この糖尿病教室では各診療科の先生や糖尿病療養看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士・管理栄養士が講師となって患者さまの糖尿病に対する知識と生活習慣の指導も行っています。

【国際学会での取り組み】

当科は各種新聞や雑誌にも紹介されております。研究活動では2015年9月スウェーデンストックホルムで開催された第51回欧州糖尿病学会（EASD）において1,209のポスター演題からWebcastビデオプレゼンテーションに選ばれ、また2016年6月米国ニューオーリンズで開催された第76回米国糖尿病学会においても特別プログラムに選ばれました。他にも海外で多くの発表を行なっています。常に一步先の世界を見据えて、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発活動と合併症などの予防対策に力を注いでいます。

○食育をテーマとした出張授業

当院では地域の未来を支える子供たちに食の知恵を授け、成人しても「自身の健康を守る力」を鍛えることは大人の責務であると考えています。医療機関と教育機関が連携を行い、食育を通した予防医学を学ぶことで将来、生活習慣病にならない体作りと知識を身につけていただいています。正しい食事のあり方や望ましい食生活は健康な体を保ち、予防医学の重要性を理解していただく事が重要であると考えています。

当科では中学校・高校などに出張授業を行ない地域の皆さまとのつながりを強化しています。

- その他／毎日新聞朝刊（全国版）、朝日新聞朝刊や毎日放送”ちちんぷいぷい”、コープこうべステーション、少年写真新聞などで当院の食育の取り組みが紹介されました。

【糖尿病の最新治療】

○インスリンポンプ療法

「インスリンポンプ療法」（CSⅡ）は、携帯型インスリン注入ポンプを糖尿病患者さんの皮下に直接装着し、インスリンを持続的に注入する治療法です。注射器を使用するより注入の手間が少なく、インスリンも即効性や持続型など複数を組み合わせて、適正な量が適正な時間に自動投与されるため非常に便利で、従来のインスリン療法で血糖コントロールが難しい場合や妊娠糖尿病の患者さんに対して血糖コントロールをよりよくしたい場合などに有効と考えられています。

【糖尿病地域連携パスについて】

高槻市では全国に先駆け高槻市医師会主導で地域連携パスを作成し、地域のニーズにあわせて効率的かつ効果的な診療システムを構築しています。パスが目指すものは従来の一病院完結型を脱して地域全体で医療を提供する地域完結型で、治療に対する共通認識を共有し、経費を掛けない連携ツールとして利用することを目的にしています。当院では大血管症、特に冠動脈のスクリーニングとがんが隠れている可能性の認識を地域に啓発活動しています。保健所との連携も行なうとともに、健康診断の受診を推進するなど糖尿病治療を推進しています。

【フットケア外来】

ハイリスクの糖尿病患者様を対象とした皮膚・排泄ケア認定看護師（WOC）によるフットケア外来および病棟でのフットケア治療を毎週水曜日に行っています。

【内分泌専門外来】

メタボや代謝異常と内分泌疾患は密接な関係があります。内分泌代謝専門医として副腎静脈サンプリングなど特殊検査を行ないながら地域の内分泌疾患の診療にも力を注いでいます。



当院の取り組みの一例（学校での出前授業）
・平成27年高槻中学での出前授業の様子

11月14日は世界糖尿病デーです。

世界糖尿病デーとは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定し、2006年に国連総会において公式に承認された国際記念日です。

イベント情報

11月12日（日）13時～16時、JR高槻駅前アクトアモレにおいて高槻市医師会糖尿病地域連携パス主催で糖尿病啓発活動が行われます。はにたんやアモちゃんも登場します。ぜひご来場ください。



365日・24時間体制で質の高い、
断らない救急医療を目指しています。



スムーズな連携で、迅速な対応を

当院は2次救急指定病院で、重症・軽症問わず救急患者さんや紹介患者さんを365日・24時間体制で受け入れる事を基本姿勢にしています。当院での救急診療は、適度な規模で各診療科間の関係も良好であるという伝統が功を奏して、スムーズな連携が長所です。各専門医へのコンサルテーションやオンコール体制*も充実しており、迅速な緊急検査・手術・処置を受けて戴けるように努めています。診療実績は年間約5,900名(平成28年度)の患者さんが受診されました(うち救急車による搬送は年間約2,400台です)。急性期の治療を受けられた患者さんは、当院ならではの閑静で眺望の良い病室で療養して頂きます。必要に応じて地域医療連携室を通じて地域の先生方への逆紹介を、また医療ソーシャルワーカーらが介護制度・療養施設等への橋渡しを、必要な方へは多職種のスタッフが集まってカンファレンス等で意見交換し、個々の患者さんが退院後にもなるべく良い環境で療養できるよう、チーム医療体制で取り組んでいます。また、災害救護に関しても注力しており、非常時に備えて準備や訓練等を継続しています。

今後も救急室に関わるスタッフ達と結束を固めて、来院された患者さんに安心して医療や看護を受けていただけるよう取り組んで行きたいと考えています。

*オンコール体制のある診療科

整形外科・呼吸器外科及び内科・消化器外科及び内科(緊急内視鏡・ERCP等)・循環器科(緊急冠動脈造影及び冠動脈形成術・ペースメーカー植込み・IABP/PCPS/低体温療法・緊急透析等)・麻酔科・皮膚科です。

地域医療連携機関として登録をいただいている西川先生・鳥居先生をご紹介します。
今後も両先生との連携を深め、地域住民の皆様の健康を支えていきたいと思ひます。

副院長 玉田の登録医療機関訪問記 No.10

◎院長 西川 深雪 先生からのメッセージ

このたび、皮膚科クリニックを開院いたしました西川深雪（にしかわ みゆき）と申します。

京都大学皮膚科で皮膚科の基本を学んでから、高槻赤十字病院にて長年勤務いたしました。高槻赤十字病院では、重症から軽症の方まで、さまざまな患者様の皮膚疾患に携わりながら、もっと一人ひとりの患者様に寄り添ったきめ細かい対応を、と思ひ開院の運びとなりました。

また、小児の患者様にとっては、通学・通園を極力妨げることなく、治療できることが大切だと思ひます。アトピー性皮膚炎、虫刺されやかぶれ、とびひ、みずいぼ、擦り傷など、小児の患者様も気軽に、気持ちよく通院できるクリニックを作りたいと思ひています。

皮膚は免疫機能において重要な役割をもった臓器であり、時には内臓疾患にも関与します。また、皮膚は見える臓器であり、患者様には見栄えという精神的な苦痛も与えてしまいます。ご自身の皮膚のことで何かしら悩んでいた、気になっていた、あるいは、たくさんいらっしやると思ひます。些細なことでも相談でき、来てよかったと思ひえる、そんなクリニックを目指しています。



西川院長

当院玉田副院長

診療科 一般皮膚科・小児皮膚科・美容皮膚科

資格・所属学会 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本皮膚科学会、日本小児皮膚科学会、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会、日本褥瘡学会、日本美容皮膚科学会、エピペン登録医、ボトックス（原発性腋窩多汗症）登録医

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	×	○	○	○
14:00～16:00（処置優先）	○	○	×	○	○	×
16:00～17:00	○	○	×	○	○	×

【休診日】水曜日・土曜日午後・日曜・祝日

登録医の
先生のご紹介

にしかわ皮フ科 クリニック

院長 西川 深雪先生

〒569-1127 高槻市西真上

1丁目36-8 2F

TEL：072-686-6161

登録医療機関のご紹介

とりい内科クリニック

院長 鳥居 芳太郎 先生

〒569-1034 高槻市大蔵司2丁目53-1 TEL：072-669-8378



◎院長 鳥居 先生からのメッセージ

私は呼吸器疾患をはじめ、幅広く内科疾患の診療を行いながら、鳥居院長と今戸Ns（左）・当院呼吸器科北部長（右）健診にて生活習慣病、感染症、悪性腫瘍の早期発見・早期治療を実践し、通院困難な患者様の訪問診療を行いたいと考えております。地域の皆様に寄り添う安心で安全な医療をご提供できるように精進させていただきますので、何でもお気軽にお問合せいただければ幸いです。

診療科目 ・内科・呼吸器内科・健診各種実施・在宅診療・予防接種

資格 日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、インフェクションコントロールドクター、医学博士

所属学会 日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会、日本肺癌学会、日本癌治療学会

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
16:30～19:30	○	○	○	×	○	×

【休診日】

木曜日・土曜日午後、日曜、祝日

ご存知ですか？

「限度額適用認定証」

平成29年8月から高額療養費の上限額が変わりました！

窓口でのお支払いが自己負担限度額までとなり、高額療養費（払い戻し）の申請が不要になります。
（自己負担限度額は、年齢および所得状況により設定されます。）

- ・1カ月（1日から月末まで）の自己負担限度額となります。
- ・保険外負担分（差額ベッド代など）や食事負担限度額等は対象外となります。

<70歳未満の自己負担限度額>（入院にかかる費用のみのご案内です。）

所得区分	自己負担限度額	多数該当
ア（標準報酬月額83万円以上）	252,600円+（総医療費-842,000円）×1% 食事代360円（1食あたり）	140,100円
イ（標準報酬月額53万円～79万円）	167,400円+（総医療費-558,000円）×1% 食事代360円（1食あたり）	93,000円
ウ（標準報酬月額28万円～50万円）	80,100円+（総医療費-267,000円）×1% 食事代360円（1食あたり）	44,400円
エ（標準報酬月額26万円以下）	57,600円 食事代360円（1食あたり）	44,400円
オ（市区町村民税の非課税者等）	35,400円 食事代210円（1食あたり） ※長期入院該当91日以降は160円	24,600円

多数該当（過去12カ月以内に限度額を超えた月4回目からの入院）

<70歳以上の自己負担限度額>（入院にかかる費用のみのご案内です。）

所得区分	自己負担限度額
現役並み所得者	入院費80,100円+（医療費総額-267,000円）×1% 多数該当44,400円（過去12カ月以内に、4回目からの入院） 食事代360円（1食あたり）
一般	入院費57,600円 多数該当44,400円 食事代360円（1食あたり）
非課税世帯Ⅱ（注1）	入院費24,600円 食事代210円（1食あたり）※長期入院該当は160円
非課税世帯Ⅰ（注2）	入院費15,000円 食事代100円（1食あたり）

手続き不要

注1：非課税世帯Ⅱとは、世帯主及び被保険者は住民税非課税の人。

注2：非課税世帯Ⅰとは、世帯主及び被保険者が住民税非課税で、かつ各種所得等から必要経費・控除を差し引いた所得が0円となる世帯に属する人。

【お手続き方法】

ご加入の保険者にお問合せいただき申請を行なって下さい。発行された限度額適用認定証は1階、患者支援センターにてご提示願います。

実践さながらに大規模な訓練と研修

～日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練～

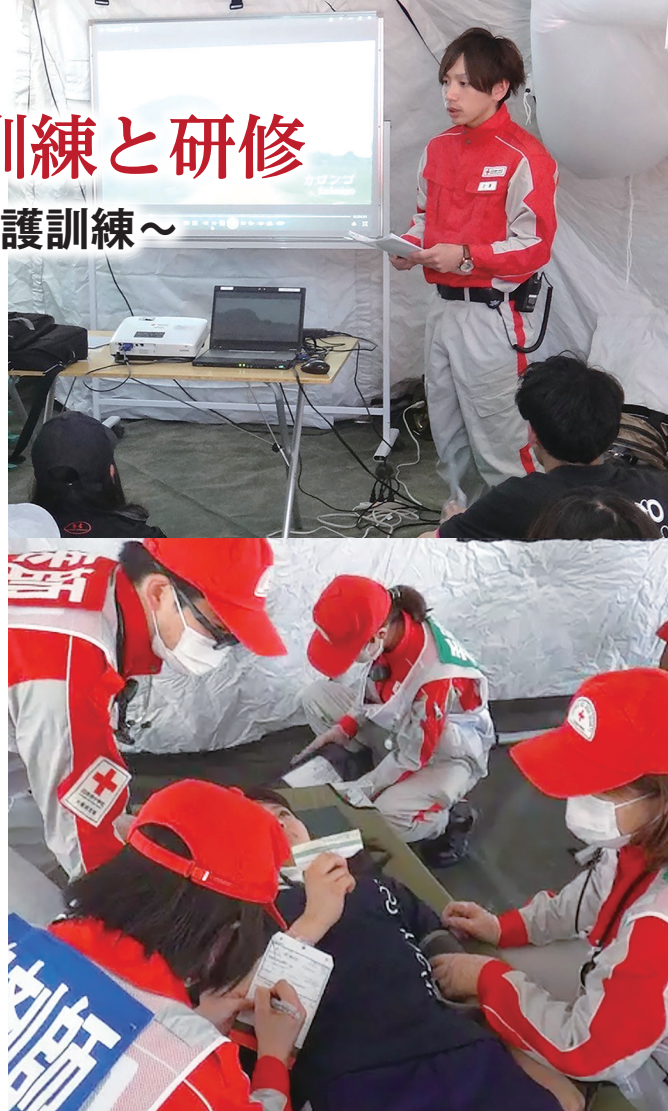
社会課

平成29年6月17日(土)、京都府・丹波自然公園において「日赤第4ブロック合同災害救護訓練」が開催され、当院からは救護班1チームが参加しました。

京丹波町を襲った震災という訓練想定で、近畿2府4県から集結した多数の救護員のもと、救護所の設営からトリアージ、救護所内での治療まで実戦さながらの大規模な訓練を行うとともに、大阪赤十字病院と共同でホスピタルdERU※を展開しました。また、医療チームや看護学生を対象とした研修も実施するなど充実した災害訓練となりました。

日本赤十字社は、災害救助法において災害の際には、救援救護活動を行うとされています。昨今は、自然災害のニュースを目にする機会も増え、災害現場での医療救護活動の重要性は高まっており、当院においても有事の際に迅速に活動できるよう常に訓練や研修を行っています。

※ホスピタルdERU=仮設診療所(入院機能・手術機能含む)



震度6強を想定して【災害防火訓練実施】社会課

平成29年7月28日(金)、災害防火訓練を実施しました。休日の昼間に震度6強の地震が発生した想定で自衛消防組織による情報収集、火災発生時における消火活動、各部署が作成したアクションカードによる活動の検証、防火管理体制の改善を図る目的で実施しました。

災害対策本部を1階事務当直室に設置し、被害状況を確認、エレベーターに閉じ込められた人を救出、病棟で発生した火災の消火活動など多岐に及んだ訓練となりました。大規模な災害が発生した場合、正しい情報をいかに早く収集し、職員に伝達していくかが重要になっており、今回の訓練でも情報の整理、重要度、優先度の仕分けを重視しました。

当院はこれからも地域の医療機関として皆様の安心・安全のために継続して訓練を行ってまいります。





医療をもっと身近に、わかりやすく。 「市民公開講座」レポート



平成29年7月1日(土) 13時30分より高槻現代劇場文化ホールにて『市民公開講座』を開催しました。

第一部の講演会では「見て、触って、早期発見！」をテーマに古川院長が「気をつけたい皮膚の変化」、小林乳腺外科部長が「ちょっとみてみよう、乳房の病気」などをわかりやすく紹介。他にも当院の医師・認定看護師・薬剤師が疾患の早期発見につながるポイントや医療に対する思いを講演しました。

第二部の「～日頃気になっていること、ちょっと相談しませんか?～」の個別相談コーナーでは、市民の方から「自分が病気になったらどんな治療法がありますか」等の質問が挙がり、各分野のエキスパートが出席された方々の疑問に真摯に回答しました。

市民公開講座の利点は、市民の方にとっては診察室ではないところで医療関係者と話す機会を持つこと。そして当院にとっては市民の皆様の気持ちを知り診療に臨めることです。

多くの方にご参加いただき、とても盛況な講座となりました。ありがとうございました。

高槻赤十字病院

市民公開講座

～見て、触って、早期発見!～

2017年7月1日(土) 13:30 ~ 16:30

高槻現代劇場 文化ホール2F 展示室

〒569-0077 高槻市野見町2-33 Tel: 072-671-1061

司会 平松 昌子 先生 (高槻赤十字病院 副院長)

Opening Remarks (13:30 ~ 13:35)

講演 (13:35 ~ 15:25)

「気をつけたい皮膚の変化」	古川 福実 先生 (院長)
「真直を伴う病気」	松島 義介 先生 (消化器科)
「太もものつけねのふくらみ」	今井 義朗 先生 (消化器外科)

— 休憩 (14:35 ~ 14:45) —

「リンパ節の病気」	坂本 宗一郎先生 (血液・腫瘍内科 副部長)
「ちょっとみてみよう、乳房の病気」	小林 裕弘 先生 (乳腺外科 部長)
「進化する抗がん剤の副作用予防：むかつき予防」	濱武 清範 先生 (外来がん治療認定薬剤師)
「抗がん剤治療に伴う脱毛ケア・スキンケア」	諏訪 亜希子先生 (がん化学療法看護認定看護師)

個別相談コーナー (16:05 ~ 16:30)

～日頃気になっていること、ちょっと相談しませんか?～

参加費
無料

申込
不要

- ・おくすり相談：薬剤師
- ・看護相談：看護師
- ・医療福祉相談：MSW・事務

※なお本講座は大阪府医師会生涯研修に認定(3単位)されております。
共催：高槻赤十字病院、プリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社/中外製薬株式会社
後援：高槻市医師会
【お問い合わせ先】
高槻赤十字病院 〒569-1096 高槻市阿部野 1-1-1 TEL: 072-696-0571
地域医療連携課

家庭で役立つ薬の話

どうして薬は水で飲まないといけないの?

「効果を発揮させる薬の飲み方」 薬剤部 宮西 将之

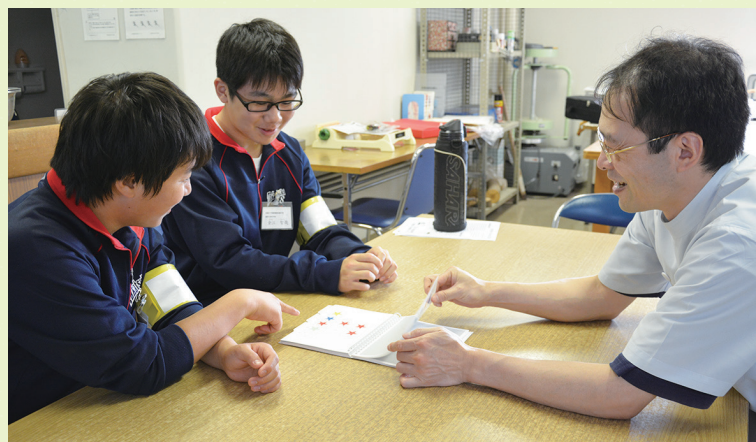
水以外で一番多いと考えられるのが、お茶で飲む場合です。貧血で用いる鉄剤は、お茶の成分(タンニン)によって吸収を妨げる可能性があります。実際の吸収にはほとんど影響がないことが分かっており、濃いお茶を避ければ問題ないでしょう。

むしろコーヒー・紅茶に注意が必要です。これらの飲み物にはカフェインが含有されており、市販の風邪薬にもカフェインが含まれているものが多いため、成分が重複します。カフェインの摂り過ぎは頭痛や不眠、頻尿などの中毒症状が発現することがあるので注意が必要です。

炭酸飲料や清涼飲料などで薬を飲む場合は、胃内のpHが変動し、薬の吸収を弱めたり強めたりする可能性があります。他にも、お酒と睡眠剤、牛乳と一部の抗生剤、グレープフルーツジュースと一部の降圧剤など様々な飲み合わせが最近の研究でわかっています。一方、まだまだ不明の点が多いのも事実です。

以上のことから、効果を確実に発揮させるために、薬は水もしくは白湯で飲むことをお勧めします。

災害時の 医療救護も学習



【2日間の職業体験学習】

社会課長 濱田 健司

日頃から地域とのふれあい、連携を大切に行なっている当院は毎年、地域の中学校が実施している「職業体験学習生」の受入れを行っています。今回は高槻市立第八中学校の生徒さん2名が職業体験学習にいられました。

看護体験や手洗い体験、リハビリテーション科、薬剤部、放射線科、検査部や社会課の仕事。また、普段見られない病院の業務や災害時における医療救護班の活動内容など、他の医療機関では体験できない赤十字独自の活動についても学習しました。

職業体験を通して将来医療に係わる仕事に就いてくれる方が増えることを願っています。

おすすめ レシピ

- ・魚のトマトソースかけ
- ・洋風サラダ
- ・野菜スープ
- ・季節の果物(メロン)
- ・ご飯(120g)

材料(1人分)

～糖尿病教室より～ 食べ物をバランスよく摂取！

<魚のトマトソースかけ>

メルルーサ	70g	ブイヨン	0.5g
塩	0.3g	オリーブ油	2g
コショウ	適量	コショウ	適量
油	2g	インゲン	5g
薄力粉	5g	なす	15g
トマト	80g	赤ピーマン	15g
玉葱	30g	黄ピーマン	15g
にんにく	1g		
バジル(乾)	適量		

<洋風サラダ>

マッシュルーム(生)	5g
ミックスビーンズ	10g
レタス	15g
紫キャベツ	10g
ノンオイルD(サウザン)	10g

<季節の果物>

メロン	80g
-----	-----

<野菜スープ>

ぶなしめじ	20g
キャベツ	20g
ズッキーニ	15g
人参	10g
とうもろこし(缶)	10g
ブイヨン	1g
コショウ	適量
パセリ(乾)	適量
水	150g

作り方 魚のトマトソースかけ(一人分)

- ① メルルーサに、塩・コショウをして薄力粉をまぶし、表面に油をぬってオーブンで焼く。(210℃約9分)
- ② トマトは湯むき1～2cmの角切りにし、玉葱・にんにくはみじん切りにしておく。
- ③ 鍋にオリーブ油をひき、にんにくを加え香りかき立てたら玉葱を加えて色づくまで炒める。そこにブイヨンとトマトを加え煮て、ミキサーにかきする。最後にバジル(乾)も入れる。
- ④ 赤ピーマン、黄ピーマン、なすは1～2cm幅の細切りにしたものと、インゲンを焼く。
- ⑤ ①と④が焼けたら、皿に盛りつけ、③のトマトソースをかける。

作り方 野菜スープ(一人分)

- ① キャベツ・ズッキーニ・人参は、1cm角に切り、ぶなしめじは1本ずつにはぐしておく。
- ② 鍋に水・ブイヨンを入れ①ととうもろこし(缶)を加えやわらかくなるまで煮る。
- ③ コショウを加え、味をととのえる。
- ④ 器に盛りつけ、パセリ(乾)をふる。

エネルギー 491kcal 炭水化物 71.1g たんぱく質 21.2g
脂質 5.9g 塩分 1.9g 食物繊維 7.9g



作り方 洋風サラダ(一人分)

- ① レタスは1口大に切り、紫キャベツは千切りにする。
- ② マッシュルームは、薄切りにしローストする。
- ③ ①②を皿に入れ、その上にミックスビーンズを盛り付ける。
- ④ ノンオイルドレッシングを添える。

がん患者サロン開催のお知らせ

『がん患者サロン』は、がん患者さまやご家族が語り合い交流できる場です。
「誰かと話したいな…」「他の人はどうしているのかな…」という時、
一人で悩まないでお気軽に、ちょっと立ち寄ってみてください。

対 象 がん患者さま、ご家族（他院通院中の方も参加可）

開催日時 毎月 第3水曜日 13時～15時（出入り自由）
（※3月のみ祝日と重なるため3/28に開催します）

13:00～13:30 ミニ講座

13:30～15:00 フリー座談会

場 所 高槻赤十字病院2階 がん相談支援センター

申し込み
不要



お問合せ先

高槻赤十字病院 医療社会事業部 地域医療連携課 がん相談支援センター
平日9時～16時 TEL:072-696-0571 (代表)

命の灯、再び。



赤十字マーク点灯式

平成29年7月24日（月）、古川院長を含めた病院四役と当院職員、整備にご協力いただいた工事担当者の方々ら関係者が出席し「赤十字マーク」の点灯式を行いました。

設備故障が原因で赤十字マークを長年点灯できずにいましたが、古川院長の「この灯だけは消してはならない」との思いのもと、はげ落ちていたペンキを塗り替え、ライトも電球式に整備を行なうことで赤十字マークは以前の輝きを取り戻しました。

建築当時から地域の皆さん、歴代の病院職員、多くの方に見守られ見守ってきた当院屋上の赤十字マークは、赤十字の精神とともにこれからも皆さんと高槻赤十字病院を明るく照らす「命の灯」として輝き続けていきます。

※赤十字マークは、戦争や紛争などで傷ついた人びとと、その人たちを救護する軍の衛生部隊や赤十字の救護員・施設等を保護するためのマークです。紛争地域等で「赤十字マーク」を掲げている病院や救護員などには、絶対に攻撃を加えてはならないと国際法や国内法で厳格に定められています。



シャトルバスのご案内



**高槻赤十字病院を受診される患者さま、ご面会
に来院される方に無料でご利用いただけます。**

【JR 摂津富田駅】



【高槻赤十字病院】



※注意

病院が休みの日は運休となります。
バスの構造上、車椅子や手押し車のご乗車はできませんのでご了承ください。
往路(摂津富田駅→高槻赤十字病院)は満員になった場合、停留場を通過いたします。

【往 路】JR摂津富田駅→高槻赤十字病院

JR摂津富田駅 ロータリー東側駐車場横	巡礼橋	岡本	高槻赤十字病院
7:00	7:02 乗車のみ	7:04 乗車のみ	7:15
8:00	8:02 乗車のみ	8:04 乗車のみ	8:15
9:00	9:02 乗車のみ	9:04 乗車のみ	9:15
10:00	10:02 乗車のみ	10:04 乗車のみ	10:15
11:00	11:02 乗車のみ	11:04 乗車のみ	11:15
12:00	12:02 乗車のみ	12:04 乗車のみ	12:15
13:00	13:02 乗車のみ	13:04 乗車のみ	13:15
14:00	14:02 乗車のみ	14:04 乗車のみ	14:15
15:00	15:02 乗車のみ	15:04 乗車のみ	15:15

【復 路】高槻赤十字病院→JR摂津富田駅

高槻赤十字病院	岡本	巡礼橋	JR摂津富田駅 ロータリー東側駐車場横
7:30	降車のみ	降車のみ	7:45
8:30	降車のみ	降車のみ	8:45
9:30	降車のみ	降車のみ	9:45
10:30	降車のみ	降車のみ	10:45
11:30	降車のみ	降車のみ	11:45
12:30	降車のみ	降車のみ	12:45
13:30	降車のみ	降車のみ	13:45
14:30	降車のみ	降車のみ	14:45
15:30	降車のみ	降車のみ	15:45

平成29年度 秋期 (11月～12月) 糖尿病教室のご案内

◆年間テーマ “四季使える糖尿病教室”

当院では、糖尿病学会認定の専門医、糖尿病療養指導士、管理栄養士等が中心となり、市民の皆様が日常生活の中で正しい知識をもって健康管理が行えるよう、お手伝いさせて頂いております。毎月開催される当院の糖尿病教室を是非お役立て下さい。

◎ 日 時 秋 期 11月14日(火) 12月12日(火) 11時～13時20分
(受付は10時30分から開始)

◎ 場 所 当院3階 第一会議室・講義室 ※ 講師、テーマは予告なく変更する場合があります

(注1) 参加者多数の場合は、未受講者の方を優先させていただきます。(定員20名)

(注2) 受講を取り消される場合は、必ず一週間前までにご連絡ください。

※ お車で来院し受講される方は、駐車券をお持ちになってご来場ください。

時間	11月14日(火)	12月12日(火)
11:00～11:20	糖尿病とくすり 薬剤師	患者体験談 意見交換会
11:20～11:40	糖尿病の検査について 臨床検査技師	糖尿病について 糖尿病療養指導士
11:40～12:00	食事療法 2 管理栄養士	食事療法 3 管理栄養士
12:00～12:45	糖尿病食試食会	
12:45～13:00	休 憩	
13:00～13:20	ミニ健康講座 糖尿病と運動 理学療法士	ミニ健康講座 糖尿病と足病変 皮膚科医師

主 催：高槻赤十字病院

受 講 料：お食事代実費800円(税込)を当日に頂きます。 釣り銭のないようにご準備ください。

※ 申込書にご記入のうえ、医療社会事業部社会課までご持参くださるか、お電話にてお申込ください。

〒569-1096 高槻市阿武野1丁目1番1号 072-696-0571 (内線481番)



当院のフェイスブックをご覧ください。Facebookは病院ホームページ及び
URL:<https://www.facebook.com/takatsuki.rc.hosp>から閲覧出来ます。

高槻赤十字病院の理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

高槻赤十字病院の方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、患者さま中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さまを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さまのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心を持ち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字に課せられた使命を果たします。



日本赤十字社 高槻赤十字病院
Japanese Red Cross Society

〒569-1096 大阪府高槻市阿武野1-1-1
TEL 072-696-0571(代表)
URL:<http://www.takatsuki.jrc.or.jp>
mail:trc@takatsuki.jrc.or.jp
発行責任者 事務部長 河野 龍一



人間ドック・健診施設機能評価認定施設